

調査者：若井明彦（群馬大学）・高木康宏（都市再生機構）<sup>たかき</sup>

以下のほとんど（特に住宅地・市街地）は既踏査地区と思います。臨海部液状化の被害レポートは安田先生、規矩先生からいずれ提供されると思いますので、状況の詳細はそちらにお譲りします。

個別事象の報告以外でいくつか気づいた点を、自己の備忘を兼ねて整理したものです。

現場： JR 京葉線 新木場駅 南側

概要： 駅の南口から南1ブロック，東3ブロックを周回。噴砂，歩道・建築物周囲等の沈下を確認。詳細は省略。すでにほとんどの土砂が片づけられていた印象。

現場： JR 京葉線 舞浜駅 南側

概要： 駅の南口からディズニーランドホテル西側の駐車場ゲートを往復。噴砂，歩道・建築物周囲等の沈下を確認。詳細は省略。すでにほとんどの土砂が片づけられていた印象。

現場： JR 京葉線 新浦安駅 周辺

概要： 駅の南口から明海方面への道路沿いを往復。明海大学周辺，入船の住宅地，北側の街区1ブロックを周回。噴砂，歩道・建築物周囲等の沈下を確認。詳細は省略。

<メモ>

- ・噴砂と沈下の量（液状化の程度）に比べて，構造物自身の被害は軽微な印象。地震動（慣性力）はそれほど大きくなかったことを想像させる。Mの大きい地震特有の，地震動の“長い継続時間”が，間隙水圧の蓄積と液状化発生範囲を拡大させたのではないか。
- ・杭支持構造物は沈下しにくいいため，周囲液状化地盤との段差が大きい。戸建住宅の方が段差は小さい（杭支持でない場合は周囲に追随して構造物も沈下した）。
- ・道路部分より歩道および建築物周辺での液状化被害（噴砂・沈下）が目立つ。道路部分は路盤・路床および管理された地盤改良が功を奏したのかも。また，埋設管の埋戻し土の問題があるかも。
- ・新浦安駅の南にある明海大学付近で観察した円錐状の噴砂丘の傾斜角度の方が，検見川浜駅南口近くの空地で観察したもののそれより，傾斜角度が大きかった。含水状態や触覚から判断して，噴砂の細粒分含有率による相違と思われる（前者の方がシルト分が多いように見えた；試料は未採取）。

現場： JR 京葉線 海浜幕張駅 周辺

概要： 駅の南口からメッセ交差点と南東側公園の周囲を巡回。噴砂，歩道・建築物周囲等の沈下を確認。詳細は省略。

現場： JR 京葉線 検見川浜駅 周辺

概要： 駅の南口から磯部6丁目を經由して印旛沼下水事務所近くの橋を花見川右岸へ渡り，花見川緑地内と護岸を見ながら検見川浜駅方面へ戻る。特に，宅地以外では，交通公園と花見川右岸の防潮堤の液状化被害が顕著だったので，次ページに簡単に報告する。その他，噴砂，歩道・建築物周囲等の沈下を確認。詳細は省略。

現場： 国道 357 号線 金沢柴町 周辺

概要： シーサイドライン市大医学部駅から R357 を往復。噴砂，歩道・構造物周囲等の沈下，橋梁の段差を確認。詳細は省略。

調査者：若井明彦（群馬大学）・高木康宏<sup>たかき</sup>（都市再生機構）

現場： 花見川緑地交通公園および花見川右岸側護岸の液状化被害（千葉市美浜区）

概要： 磯部7丁目と幕張を結ぶ橋上から護岸の被災状況が一望される。噴砂等の状況から防潮堤下部が液状化したものと思われ、約100m区間で連続的に転倒していた。護岸の背後にある花見川緑地内の交通公園の敷地においても大規模な液状化が発生しており、敷地中央部等を南北に横断する亀裂・噴砂溝とともに大量の噴砂痕が確認された。



— 亀裂・噴砂溝（これら以外でも小規模な噴砂痕が散在）

(C)2011 Yahoo Japan, ZENRIN



花見川右岸の防潮堤の倒壊箇所の全景



噴砂，液状化により流動の痕跡あり



亀裂と噴砂（花見川緑地交通公園の敷地内）

以上